

J I C についての第三者諮問会合

官民ファンドの活用推進に関する関係閣僚会議幹事会

池田 弘

2019 年 1 月 30 日

- 官民ファンドの意義として重要なことは、行政機関がリスクマネーを扱うということである。世界的に見れば、シンガポールなど多くの国の行政機関がリスクマネーを扱いながら産業の成長を達成している。昨今は、「自国ファースト」の流れも強まる中、J I C の活動により日本の産業が国際社会で闘い続けられるようにしてほしい。
- 官民ファンドを通じて、行政機関のリスクマネーへの理解が深まること及び、民側も行政機関の役割をより理解し、官側・民側双方に共通の認識・知見が蓄積されることを期待する。
- 我が国においては、リスクをとる人材が少なく、ファンドの GP や LP を担える人材も枯渇している。JIC には、意欲ある人材にキャリアアップの機会を与え、人材を育成する機能も期待する。
- J I C はリスクマネーを活性化する先兵としてあるべきであり、政策目標の実現に必要な資金を支出する機能を重視すべき。J I C が、民間のリスクマネーが供給されていないところに投資を行うことで、市場を伸ばしていくべき。収益を上げることに固執しすぎることで、この役割が果たせなくなるのでは本末転倒。
- J I C の責任者・マネージャーには、公的機関であるという性質を踏まえ、国家に貢献するという理念に共感できる人材が必要である。